

エージェンシーを発揮して学ぶ子供の姿と授業づくりのポイント

エージェンシーを発揮して学ぶ子供の姿は、授業の中でもたくさん現れます。
ここでは、各教科等において、特に現れてほしい子供の姿を重点的に示しています。

令和5~7年度
各教科等授業改善プロジェクト



各教科等で特に現れてほしい子供の姿

幼児教育

- 自ら友達、もの、ことなどの環境と関わり、遊びを生み出し、自分の世界を広げている。

国語

- 言葉への気付きを手掛かりに、考えを吟味しながら、言語活動に取り組み続けている。

社会

- 社会的事象の特色や意味、社会課題の解決策等を多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）し、図や文にまとめたり説明したりしている。

算数・数学

- 日常生活や社会、数学の事象に関わる数理的な問いを見いだしている。
- 数学的な表現を用いて交流し、自他の考えを広げ、深めている。

理科

- 日常生活や社会の自然事象から問題を見だし、具体的な課題を設定している。
- 多面的な視点からより妥当な考えをつくり出している。

生活

- 自らの思いや願いの実現に向けて、学習対象との関わり方を見いだしている。

音楽

- 曲や演奏のよさや美しさを見付け、確かめながら聴き返したり、思いや意図を持って音楽表現の工夫を試したりしている。

各教科等の授業づくりのポイント

- 理解者、共同作業、精神的に安定するためのよりどころなどの多様な関わりから、発達に必要な体験を得られるようにする。
- 発達に沿った意図的な環境を構成し、そこに幼児が関わり遊ぶ中で、夢中になって試行錯誤したり考えたりする状況をつくる。

- 言語活動を通して課題を解決する児童生徒の具体像を、主たる指導事項と照らして明確にし、児童生徒と共有する。
- 課題解決を支える「しかけ」を用いて学習活動を任せ、言葉への立ち返りと再考を促す「かかわり」を行う。

- 単元の課題の解決に向けて、学習計画を立てる活動を設定し、必要に応じて計画を見直す機会を保障する。
- 児童生徒の考えを深める資料を精選して提示したり、目的を明確にした交流の場を設定したりする。

- 解決方法、理由、性質、関係等への着目を促すしかけづくりや問いかけを行う。
- 他の考えを理解する機会と、比較・検討、関連付けを図る機会を意図的に設定する。

- 対象の自然事象と関わる中で児童生徒の素朴概念が現れる、ストーリーのある単元を構想する。
- 複数の過程をまとめて任せたくて、児童生徒が解決の見通しを持つことにつながる働きかけをする。

- 児童の思いや願いに寄り添い、支え、見守り、小さな変化に目を止められるような関わりをする。
- 体験活動と表現活動の相互作用を通して、児童が深い学びを実現できる単元を構想する。

- 音や音楽を捉える視点となる音楽を形づくっている要素を焦点化して、学習内容のつながりを意識した題材を構想する。
- 児童生徒の多様な気付きや感じ方を共有・共感しながら、個々の考え方や感じ方が広がる言語活動と音楽活動を設定する。

エージェンシーを発揮して学ぶ子供の姿と授業づくりのポイント

各教科等で特に現れてほしい子供の姿

体育・保健体育

- 自己や仲間の課題を見付け、自他の気付きや他者の意見を生かして自ら考え判断し、課題解決に向けて意欲的に取り組んでいる。

図画工作・美術

- 表したいことに合わせて材料や表し方を決め、自分なりに工夫して表したり、作品や行為に込められた思いや願いを読み取り、自らの表現に生かしたりしている。

技術分野

- 問題の解決に向けて、試行錯誤を重ね、課題の解決策を構想したり改善・修正したりしている。

家庭・家庭分野

- 生活の中から問題を見いだして題材の課題を設定し、解決に向けた学習計画を立てている。

外国語活動・外国語

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて既習表現を駆使しながら自分の思いや考えを伝え合っている。

特別の教科 道徳

- 道徳的価値を自分との関わりで捉え、広い視野から多面的・多角的に考え、よりよい生き方への思いや願いを深めている。

特別活動（学級活動）

- 学級や自分の課題に気付き、他者との話合いや自己の振り返りを基に、よりよい解決方法を考え、実践している。

総合的な学習の時間

- 実社会や実生活の課題に対して、他者との関わりの中で納得解を考え続けている。

各教科等の授業づくりのポイント

- 身体活動量を確保した上で、積極的に仲間と関わりながら、自他の課題を見付けたり、解決したりする活動を設定する。
- 意図的な発問により、児童生徒の気付きや意見を引き出し、自分の考えを仲間と交流して課題解決する場面を設定する。

- 児童生徒の実態に合わせて、材料や表し方を繰り返し試したり、互いの活動や作品を自然と見合えたりする環境を構成する。
- 見取った個々の児童生徒の学習状況に応じて、主体性を促す言葉掛けや材料の提示を行う。

- 三年間を見通して、選択、管理・運用することで解決できる問題から、改良、応用しなければ解決できない問題へと題材配列を段階的に設定する。
- 問題解決の過程で、必要な情報や材料等がいつでも得られ、繰り返し試行・試作できる環境を構成する。

- 家庭・家庭分野の「学習過程」－「学習計画」－「思考・判断・表現の評価」が相互に関連するように指導及び評価の計画を立てる。
- 題材に応じて、問題を見いだす活動を「見本の観察」「実際の試し」「生活場面の想起」から選択する。

- 自分事として考えられる目的や場面、状況等が明確にある言語活動を単元の中に意図的・計画的に設定する。
- 単元末の具体的な姿を基に言語活動の様子を見取り、伝える内容や用いる表現に関する気付きを促す問い返しをする。

- 指導の意図を明確にし、多様な考えを引き出す中心発問と考えを深める補助発問を精選する。
- 道徳的価値についての多様な感じ方や考え方の交流を通して考えたことや気付いたことを基に、自己を見つめ直す振り返りの活動を設定する。

- 問題意識を高めたり、少数意見の価値化を図ったりするなど、課題を自分事化し、一人一人が熱意をもって合意形成したくなるようなしかけを行う。
- 他者と認め合う活動やキャリア・パスポートを用いた定期的な自己評価など、自分のよさをさらに伸ばす意思決定に結びつくような自己肯定感を高める工夫をする。

- 探究課題との出会いの際に地域の方や専門家の思いや願いを受け止める活動を設定する。
- 探究の目的や相手を確認したり考えを整理したりして、児童生徒を支えながら共に探究する姿勢を大切にする。